

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

湘南医療大学 保健医療学部看護学科
本田 芳香



1. 教育の責任

2022年度看護学科は、横浜山手キャンパスにて新カリキュラムを開始しております。教科担当は、基盤科目、専門基礎科目、臨床実習科目を担当しております。

学部教育に於いて、新カリでは【基盤科目】看護学概論(1学年:必修)、看護基礎ゼミ(1学年:必修)、ヘルスアセスメント学Ⅰ(1学年:必修)、ナーシングスキル学Ⅰ(1学年:必修)、ナーシングスキル学Ⅱ(2学年:必修)、ナーシングプロセスⅠ(2学年:必修)【専門基礎科目】現代医療論(1学年:必修)、【臨床実習科目】看護基盤実習Ⅰ(1学年:必修)旧カリでは、看護過程(2学年:必修)、基礎看護学実習Ⅱ(2学年:必修)、看護倫理(2学年:必修)、統合実習・看護研究Ⅱ(4学年:必修)を担当しております。教育活動は、基礎看護学の教授として、基礎看護学関連科目の責任者を担っております。学生140名に対応すべく領域横断的な教員参加による新カリキュラム教科目体制を行っております。大学院に於いて看護理論(1学年:選択)、看護教育特論(1学年:選択)を担当しております。

学年	科目名	目標
1学年前期	看護学概論	看護学の根幹科目として看護の本質を探究し、専門職として看護学を学修していくための基礎的な知識について学修する。看護学を構成する概念、看護とは、看護の変遷、主な看護理論等について学修する。また看護の観点から全人的に捉える人間、健康の概念、環境と健康、生活・ライフサイクルと健康との関連、QOLとセルフケア、職業倫理、看護実践の方法、看護実践の組織化、多職種連携などの看護学の基礎的な知識を学び、人々の健康に寄与する看護職の役割・機能について学修する。
1学年前期	看護基礎ゼミ	大学で学ぶために必要なスタディスキル、アカデミックスキルを修得する。大学生の現状や諸問題を題材に取り上げ、求められる学士力と学修方法について検討し、今後の大学生活の見通しを立てる。
1学年前期	看護基盤実習Ⅰ	地域で生活する様々な発達段階にある人との交流を通して、コミュニケーションによる関係性構築を学び、生活環境と健康のつながり、入院や入所が対象者や家族に与える影響について、看護の視点から理解する。
1学年後期	ヘルスアセスメント学Ⅰ	看護の観点から人々の健康状態についてアセスメントする意義と方法について学修する。ヘルスアセスメントの概要、看護過程におけるヘルスアセスメントの意義、バイタルサインの観察技術や問診の技術および系統的に身体面をアセスメントする技術に関する基礎的な知識について学修する。フィジカルアセスメントに必要な身体診査技術(視診・触診・打診・聴診)やバイタルサインの観察技術について、演習において実践力を養う。
1学年後期	ナーシングスキル学Ⅰ	コミュニケーション、安全管理・安楽確保・セルフケア・看護記録などに関する技術について、根拠に基づく看護を提供するために必要な基礎的な知識を学修する。また生活行動に関する看護援助技術について学修する。環境を整える、食生活と栄養摂取、排泄、活動・休息、清潔・衣生活の援助技術等に関して、安全性・安楽性・自立性・個別性などに配慮し、根拠に基づく看護を提供するために必要な基礎的な知識を学び、演習において実践力を養う。
2学年前期	ナーシングプロセスⅠ	看護の対象となる人の個別性に配慮した看護を提供するために必要な看護過程について学修する。対象となる人を全人的に理解するために必要な情報を収集し、その情報を分析・解釈したうえで看護上の課題を導き出し、安全性・安楽性・自立性・個別性などに配慮して看護計画を立案し、計画に基き看護援助を実施して評価する一連のプロセスについて学修する。
2学年前期	ナーシングスキル学Ⅱ	侵襲を伴う診断や治療を受ける人々に対して、安全面や苦痛の緩和に配慮した根拠に基づく看護援助技術について学修する。呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬:輸血の技術、検査に伴う援助技術、手術に伴う援助技術、救命救急処置技術、感染予防の技術、排泄の処置における援助技術、人生の最終段階における援助技術などの基礎的な知識について学修する。さらに演習において侵襲性の高い技術を安全面に配慮して実施する。

2. 私の理念

私の理念

(1)一人ひとりの個性を見極め、個別最適な学修者主体の教育

一人ひとりの個性を見極め個別最適な学修者主体を推進するため、学生一人ひとりに関わり、その関りを通して、誠実に対応するよう日々自己研鑽を重ねております。

(2)感性を育む教育を通して、学生と共に成長する

プロフェッショナルとしての基盤を創るため、幅広い教養を身につけ感性を育む教育を目指しております。「現場」感覚を大事にし、共に体験し、共に感じ、共に考えながら感性を育み、学生と共に成長していきたいと考えております。

理念をもつに至った背景

下記の基礎教育経験及び臨床経験で培った実践知が、私の理念をもつに至った背景です。

(1)基礎看護学の教育モデル

基礎看護学の大家である 故 吉田時子先生(元聖路加看護大学教授)にご教授いただきました。看護技術の普遍性及び看護学教育の未来像について情熱をもって語っていただきましたことが、基礎看護学の任をする上で礎となっております。

(2)聖路加国際病院に於ける患者中心の看護実践経験

聖路加国際病院では、一人ひとりに適した看護ケア方法について、基本を大事にしたトレーニングを繰り返し受けました。患者中心の看護ケアとは何か、その人に適した看護ケアとは何か、常に考え探究しながら、病棟看護管理者として看護ケアの質向上を目指した看護実践をしてきました。

(3)ライフ・プランニング・センターに於ける新たな健康教育実践モデル

ライフ・プランニング・センターでは、故 日野原重明理事長(聖路加国際病院名誉理事長・聖路加看護大学名誉学長)のご指導の下、米国の外来診療モデルによる患者参与の診療の在り方、慢性疾患に係るナースの診断学実践トレーニングを受けました。日野原先生のその人の一生に関わる新たな健康教育実践を直近に触れ、その本質を学修しました。ライフ・プランニング・センターで培った実践知が、私の価値・信念の原点となっております。

3. 教育の方法・戦略

1) 看護学のメタパラダイムを看護学実習体験により統合しその基盤を形成する。

【概要】

看護学の基盤形成は、看護学概論と看護基盤実習Ⅰと連動しながら教授しております。看護学概論は、看護学の根幹科目として看護の本質を探究し看護専門職として看護学を学修していくための基礎的な知識を学修します。看護基盤実習Ⅰでは、地域で生活する様々な発達段階にある人との交流し、コミュニケーションによる関係性構築を学び、生活環境と健康のつながり、入院や入所が対象者や家族に与える影響について、看護の視点から理解することを目的としております。

【方針】

1 年次前期に於いて、看護学の全体像を学修する意図で、看護学概論で得られた知見を看護基盤実習Ⅰにおける実践経験を通した学びを探究する方針をとっております。

【教授方法・授業の工夫・開発した教材など】

看護学を最初に学ぶ専門科目として看護学概論が位置付けられています。看護学のメタパラダイムである人間・環境・健康・看護の各概念を具現化した教材を活用しております。看護基盤実習Ⅰでは、看護学メタパラダイムに係る事前学修課題を課し、実習最終日にはメタパラダイムを統合する教授方法

をとっております。

2) 看護の対象となる人々の健康状態に対し、エビデンスに基づいた専門的知識と技術を統合したパフォーマンスとして看護スキルを修得する。

【概要】

看護学の観点から、人々の健康状態についてヘルスアセスメントする意義及び具体的な実施方法について学修します。また生活行動に係る援助技術を根拠に基づく看護を提供するため、安全性・安楽性・自立性・個別性などに配慮し、根拠に基づく看護を提供するために必要な基礎的な知識を学び、演習において実践力を養うことを目的としております。

【方針】

1年次後期に於いて、ナーシングスキル学Ⅰとヘルスアセスメント学Ⅰを連動し学修します。2年次前期に於いて、ナーシングスキル学Ⅱを連続して学修することにより、スキルの基本を修得する方針をとっております。

【教授方法・授業の工夫・開発した教材など】

各単元において、事前と事後学修課題は必修とし、エビデンスに基づいた専門的知識・技術を統合したパフォーマンスとして、身体の修得するスキルと位置付けております。

3) 看護の思考過程の基本を、臨床判断モデルを通して学修する。

【概要】

看護の対象となる人の個別性に配慮した看護過程について学修します。

【方針】

2年次前期科目に於いて、Tannerの臨床判断モデルを活用したシミュレーション教育にて、看護の思考プロセスを学修する方針をとっております。

【教授方法・授業の工夫・開発した教材など】

看護実践に即した思考過程を探究できる理論として、Tannerの臨床判断モデル及びGiddensの概念基盤型学修の両者を導入したシミュレーション教授方法を開発しました。

4. 学修成果

1) 看護学のメタパラダイムを看護学実習体験により統合しその基盤を形成する。

学修成果は、看護基盤実習Ⅰに於いて、看護学のメタパラダイムを事前・実習・事後学修の一連の学修プロセスにより統合することができています。

2) 看護の対象となる人々の健康状態に対し、エビデンスに基づいた専門的知識と技術を統合したパフォーマンスとして看護スキルを修得する。

ナーシングスキル学Ⅰ/Ⅱ及びヘルスアセスメント学Ⅰの各スキル試験に於いて、合格率100%と学修成果が得られております。

3) 看護の思考過程の基本を、臨床判断モデルを通して学修する。

新たな教育方法を導入した成果として、協働力、探究する力、考える力の獲得など学生が主体的に思考過程を育む方法を自ら獲得することができております。

5. 改善のための努力

アクティブラーニングの強化を推進していく予定です。

6. 今後の目標

短期目標

プロジェクト学修方法の推進

長期目標

- 1) 学生の主体的な学修方法の強化
- 2) 学生の思考方法の強化

